

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告

日本学校名 [横浜市立本宿中学校] 担当教諭名 [野口 雅史] (有志 44名・芸術部 10名)
 相手国・地域 [ガーナ]
 海外学校名 [Shama Model D/A Junior High School] 担当教諭名 [宮田 峻弥(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単 元 名	時間数
	課外活動	ガーナとの一校一国運動	35

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Our Nature
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	「自然との調和」、「自然への恩返し」というメッセージを込めて、制作を行った。身の周りにある自然を当たり前と思わずに、自然を意識した生活を送っていけるように想いを込めました。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナに対する理解や自国の文化に対する理解が深まった。 ・海外の同年代の生徒と共に学び、共に作業をするという経験が本校の生徒にとってはとても貴重な経験となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの学習を深めきれなかったこと。 ・有志の活動であったため、時間の確保が難しかった点と一校一国の活動を一部の生徒だけの学習にせず、全校に広げていくこと。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・他国について、イメージが先行していることを子どもたちが感じていた。実際に学んでいくなかで、そのイメージの正しい点や間違っている点を感じている姿が見られた。 ・世界が身近になり、将来のことや進路について考えが深まった様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについては、さらに子どもたちの意識を深めていかないといけないと感じた。 ・子どもたちが自分たちで自主的に考え、学んでいく姿が見られ、教員がレールを敷き、コントロールしすぎていたと反省した。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	名前とそれぞれが好きなものを書いた画用紙を持ち、写真撮影をし、フォーラムに掲載した。	ガーナの生徒の自己紹介写真などを見る中でこれからの協働学習への意欲の高まりを感じた。	課外活動 5
共有 テーマ学習	7月 9月	講師を招いてのガーナに関する講演や、SDGsに関するワークショップを行った。 SDGsの4、14、15について調べ学習を行い、相互に共有しあった。	ガーナについての理解が深まる様子が見られた。SDGsについては、これまで学んでこなかったため、新しい学習内容に少し苦戦しながらも意欲的に調べ学習をしていた。	課外活動 10
融合 メッセージ作成	10月 11月	連絡を取りながら、SDGsの学習をもとに、絵に込めたいメッセージを考えた。「自然への恩返し」、「自然との調和」というメッセージをもとに取り組んでいくことにした。	SDGs4、14、15を調べて学んだことから、共通点を見つけたり、新たな気づきを共有したりし、込めたい想いを全体で考えた。	課外活動 8
創造 壁画制作	12月 1月	日本とガーナが半分ずつそれぞれの自然を表すデザインに決め、壁画制作を行った。	気持ちを込めて精一杯制作する様子が見られた。制作する中で、自主的に本で日本の自然について調べている様子なども見られた。	課外活動 12
評価 振り返り 自己評価	3月 (4月)	完成した絵をもとに振り返りを行う予定であったが、休校の影響で年度内は取り組むことができなかった。来年度初めに行う予定。	同左	課外活動 0

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	絵に描いた日本の自然やガーナの子どもたちに日本のことを紹介しようと動画を作る様子から自文化を再認識する姿が見られた。
異文化を理解する力	4	ガーナに関する講演を聞いたりする中で、他の文化の特徴を知り、それを認めたり、違いを認めたりする場面が多く見られた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	インターネットや書籍を活用し、調べ学習を行う中で情報を収集したり、まとめたりする力が身についた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	全学年有志での取組のため、学年を超えたやり取りが多く見られ、それぞれの考えや気持ちを伝え合い、理解し合おうとする姿勢が見られた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	これまでのアフリカやガーナに関する知識がイメージであり、必ずしも事実ではないことに気が付く場面が見られた。
主体的に考え行動する力	4	ゴールを共有しながら、そのためにはどのようにしていったらよいか考え行動する姿が、特に共有のステージで見られた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	相手のことを考え、自分の気持ちや考えをうまく伝えながら活動しようとする姿勢が見られた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	学んだことをまとめて、そのメッセージを込めて壁画にしようとする姿勢が見られた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	—	休校により行うことができなかった。